

めざす児童生徒像

(学校教育目標)	人とつながり未来とつながる確かな学びの実現
(学校教育目標達成に向けた児童キーワード)	つながり、高める！今日より前進！
(目指す児童像)	・あたたかい子・・・相手を理解し、相手の立場に立って思いやれる子 ・たくましい子・・・心身ともに健やかで、新しことにチャレンジできる子 ・かしこい子・・・知識を活用し、自ら学びに向かう子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
（学校で設定）	学校教育目標	③④の児童アンケートの肯定的な回答90％以上	① 学校は楽しい	100	87.3	96	-12.7	・③④ともに90％を超えているが、④の児童と教師の結果の差が大きい。	・行事の振り返り、学校掲示等を活用し、職員全体で児童の望ましい言動を積極的に認めていく。
			② 自分にはいいところがある	100	81.2	93.1	-18.8		
			③ 「自分から、自分たちから」を意識して行動している。	100	90.6				
			④ あったか言葉を進んで使ったり、あったか行動を意識して行動したりしている。	88.2	94.1				
			集計						
	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目				達成状況の分析	改善策
重点項目 石川県共通業務の改善	教職員・組織働き方	①の教職員アンケートの肯定的な回答が100％	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	82.4				・長時間の会議、勤務時間外の会合の削減により、80時間越えはゼロ。	・時期や業務内容によって負担が偏らないよう、状況把握に努め、分担、平準化を図る。
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができる。	94.1					

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
						教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	①②③のアンケート結果が80%以上	①	研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	93.8				主任指導主事を積極的に活用したり、講師を招いた研修を計画したりと、計画的に研究を進めている。	・今後も授業実践を中心に実践的に研究を進め、教師の授業力向上を図る。 ・各教科、領域、行事等との関連を意識し、児童の道徳性を高める研究を進める。
				②	授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100					
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組む、事項の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	93.8					
				集計							
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	④⑤の教職員アンケート、児童アンケートの肯定的な回答が共に90%以上	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	93.8	84.4		-9.4	③と④について 教員はできていないと捉えてはいるが、児童のできているという捉えと差がある。できている姿のイメージが共有されていないことが原因ではないかと考えられる。 ⑤について 本校の研究主題に直結する内容である。教員は93%と高い数値であるが、児童はそこに至っていない。自己評価が低く、できているが自己を肯定できていない児童もいると思われる。	・安宅授業言葉・Qワードを活用することを大切にし、2学期にそれらのイメージを共有する授業集会を行い、全校で目指す姿の共有を図っていきたい。 ・学習の学びを実感した際に認め、児童の自己肯定感を高めていく。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	86.7	85.6		-1.1		
				③	児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	73.3	87		13.7		
				④	児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	71.4	85.2		13.8		
				⑤	児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	93.3	86.9		-6.4		
				⑥	児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	93.8	89.9		-3.9		
				集計							
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	②③④の教職員アンケート、児童アンケートの肯定的な回答が共に90%以上	①	指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	93.8				・②③については、目標達成を十分にしている状況にある。これは、年度当初に作成した各学年のカリキュラムマップや学校力向上ロードマップを活用しながら教育活動の実践をして、毎月末に学年・研究部会等で進捗状況を確認し、改善策を話し合うことを行っていることが要因と考えられる。 ・④については、目標達成に不十分な状況である。これは、1学期に学校研究を通しての交流がなかったことが要因であると考えられる。	・左記サイクルを今後も継続し学校教育目標の実現を目指していきたい。 ・今後は、小中学校の学校研究の公開授業の機会を活用して互いに参観し合い、情報交換と課題の共有を図っていきたい。
				②	児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100.0					
				③	全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0					
				④	校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	75.0					
				集計							
		家庭学習	①②の教職員アンケート、児童アンケートの肯定的な回答が共に80%以上	①	家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	100	83		-17	・①については、職員・児童ともに目標達成に至っている状況である。ただ、児童は職員と比べ17%低い結果であった。 ・②については、目標達成に不十分な状況である。特に、児童の多くは家庭学習で学習用端末を使用していないと言える。これは、1学期に学習用端末を持ち帰る取組をしていなかったことが要因であると考えられる。	・家庭学習プラス週間を活用して、計画を立てて家庭学習に取り組む力を高めていきたい。 ・今後は、定期的に学習用端末を持ち帰り、家庭学習で活用できるようにする必要がある。
				②	学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	86.7	69		-17.7		
				③	自己の課題を克服するための自学に取り組んでいる。	78.6	84.6		6		
				集計							